

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査【小学校】調査結果の概要

## 1 教科に関する調査結果

令和7年度の調査は、国語、算数、理科の3教科で実施されました。  
平均正答数では、調査したいずれの教科でも全国の平均正答数を下回りました。  
問題に対する無解答率は各教科とも全国平均よりも低い傾向にあります。問題に対する取組は良好です。

## 3 児童質問紙調査に見られる課題と対応

### (1) 児童の学習意識と学校の授業改善

#### ① 教科に関する意識

阿賀野市の児童の教科に関する意識は、設問項目の多くで肯定的評価が全国を上回っています。学力向上に向けて重要な指標となる「教科の勉強が得意」「教科の勉強が好き」は、国語はそれぞれ、全国比+7ポイント、全国と同等という結果でした。算数はそれぞれ、全国比+1.8ポイント、同-1.4ポイントでした。理科はそれぞれ全国比+6.9ポイント、同+5.2ポイントでした。教科に関する意識は高く良好であると言えます。

#### ② 教科の学習活動に関する意識

学習活動に関する設問項目の多くで、肯定的な評価が全国を上回っています。特に、「教科の内容がよく分かる」については、国語は全国比+2.5ポイント、算数は+4.5ポイント、理科は+4.8ポイントでした。児童の8割から9割が「授業がよく分かる」と回答しており、学習活動に関する意識は良好であると言えます。

#### ③ 授業改善の推進

「主体的・対話的で深い学び」の意識に関する設問9項目全てで全国平均を上回っています。5項目で+5ポイント以上という結果でした。7割から9割の児童が肯定的な回答をしています。「主体的な学習の調整」の意識に関する設問2項目についても全国平均を上回っています。これは、各校の授業改善の取組が着実に進められている成果と言えます。今後は、この取組の成果が思考力・判断力・表現力の育成につながるように一層授業改善を進めることが重要であると考えます。併せて、基礎的・基本的内容を定着させるための繰り返し学習をする時間の確保が重要であると考えます。

### (2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

#### ① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、肯定的評価の割合は全国を上回っており、良好な状況にあると言えます。「定時就寝・定時起床」に関しては、実質的な睡眠時間は調査されませんでした。朝食の栄養バランスや睡眠時間の大切さについて、学校での保健指導とともに、保護者と連携し指導を継続していくことが大切です。

#### ② 学習習慣

平日1時間以上家庭学習を行っている児童の割合は62.1%で全国比+8.1ポイントです。しかし、昨年度の阿賀野市の結果と比べると-7ポイントでした。全国的に学習時間が短くなる傾向が見られますが、阿賀野市も同様の傾向が見られます。一方で、「1時間未満(全くしないを含む)」の児童の割合は全国を下回るものの37.6%でした。小学校では、学習習慣の定着を目的として、家庭学習時間については「学年×10分」を目標に指導してきました。その結果、一定の児童には学習習慣は定着しつつあります。しかし、その割合が減少していることや約4割の児童について未定着であることから、今後も家庭と連携しながら個々の児童の実態に配慮しつつ、家庭学習の習慣化に取り組む必要があります。学力向上のためには家庭学習の質の向上が不可欠です。ドリル以外にも、授業内容との密接な関連を図った学習(その日の学習の振り返りや予習)などを課題として与え、家庭学習をすることの良さを実感させていくことが必要であると考えます。

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査【中学校】 調査結果の概要

## 1 教科に関する調査結果

令和7年度の調査は、国語、数学、理科の3教科で実施されました。

平均正答数では、調査したいずれの教科も全国の平均正答数を下回りました。国語の全国との差は改善傾向がみられます。

問題に対する無解答率はいずれの教科も全国平均よりも高い傾向にあります。基礎・基本の定着を一層図ることが大切です。

## 2 生徒質問紙調査に見られる課題と対応

### (1) 生徒の学習意識と学校の授業改善

#### ① 教科に関する意識

阿賀野市の生徒の教科に関する意識は、国語や数学では設問項目の多くで肯定的評価が全国を上回っています。学力向上に向けて重要な指標となる「教科の勉強が得意」「教科の勉強が好き」は、国語はそれぞれ、全国比+9.8ポイント、同+3.2結果でした。数学はそれぞれ、全国比-2.4ポイント、同-1.4ポイントでした。2教科については、教科に関する意識は良好であると言えます。理科は、同項目においてそれぞれ全国比-1.2ポイント、同-8.2ポイントでした。理科についてはやや低い傾向にあり教科による差が見られます。

#### ② 教科の学習活動に関する意識

国語と数学は学習活動に関する設問項目の多くで、肯定的な評価が全国と同等か上回っています。特に「教科の内容がよく分かる」については、国語は全国比+5.5ポイント、算数は+0.3ポイントでした。生徒の7割から8割が「授業内容はよく分かる」と回答しており、良好であると言えます。理科は同項目で-5.4ポイントでした。理科についてはやや低い傾向があり教科による差が見られます。

#### ③ 授業改善の推進

「主体的・対話的で深い学び」の意識に関する設問9項目中8項目で全国平均を上回っています。7割から9割の生徒が肯定的な回答をしています。「主体的な学習の調整」の意識に関する設問2項目についても全国平均を上回っています。これは、各校の授業改善の取組が着実に進められている成果と言えます。

今後は、無答率が高い現状も踏まえつつ、この取組の成果が思考力・判断力・表現力の育成につながるように、自分の考えを書く、言葉で説明する学習を充実させるなどの授業改善を進めることが大切です。併せて、基礎的・基本的内容を定着させるための繰り返し学習をする時間の確保が大事であると考えます。

### (2) 家庭での過ごし方と学習習慣の改善

#### ① 生活習慣

「朝食摂取」、「定時就寝・定時起床」など生活の基本となる習慣については、肯定的評価の割合は全国平均を上回るまたは同等の結果で9割を超えています。良好な状態にあると言えます。「定時就寝・定時起床」に関しては、実質的な睡眠時間は調査されませんでした。朝食の栄養バランスや睡眠時間の大切さについて、学校での保健指導とともに、保護者と連携し指導を継続していくことが大切です。

#### ② 学習習慣

平日1時間以上家庭学習を行っている生徒の割合は47.9%で全国比-13.7ポイントです。昨年度の阿賀野市の結果と比べると-14.3ポイントとなっています。全国的に学習時間が短くなる傾向が見られますが、阿賀野市も同様の傾向が見られ、約半数の生徒は、家庭での学習時間が1時間未満という結果です。

学力向上には、授業改善とともに、家庭学習も不可欠です。授業内容との密接な関連を図った学習（その日の学習の振り返りや予習）などを課題として与えることは大切です。それに加えて、自分にとって必要な学習内容や量、時間を生徒自身で調整できるように指導し、家庭学習の一層の充実を図る必要があります。